令和4年度第7回協働支援会議

令和5年3月27日（月）午後1時30分から

（オンライン会議）

出席者：藤井委員、関口委員、平野委員、竹井委員、則竹委員、伊藤委員、大野委員、
大柳委員

事務局：地域コミュニティ課長、植木主任

藤井座長 それでは、第7回協働支援会議を開催いたします。議事に先立ちまして定足数の確認をいたします。定足数、過半数を超えておりますので、これをもって会議が成立いたしました。

初めに、事務局から資料の確認をお願いいたします。

地域コミュニティ課長 皆様、こんにちは。本日もよろしくをお願いいたします。

初めに資料の確認をさせていただきます。本日お配りをしております資料は、資料1から資料4の4点でございます。

資料1でございますが、「令和5年度協働支援会議開催予定表」でございます。

資料2といたしまして、「令和5年度一般事業助成 助成団体決定までのスケジュール」。

資料3。こちら、3-1と3-2がございますけれども、資料3-1が「協働事業の進捗状況の総括」。資料3-2が、「協働事業進捗状況調査一覧表・簡易版」となっております。

最後、資料4が「新宿ソダチ（新宿区協働推進基金助成事業のご案内）」。こちらは事前に郵送にてお送りをさせていただいております。

資料については以上でございます。不足等、ございませんでしょうか。

では、座長、よろしくをお願いいたします。

藤井座長 それでは、これから議事に入ります。議事録作成のために、ご発言の前にお名前をお願いいたします。

それでは、次第に従いまして議題1、令和5年度の協働支援会議について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 それでは、令和5年度の協働支援会議開催日程について、ご説明いたします。

資料1、「令和5年度協働支援会議開催予定表」をご覧ください。来年度は予備回を含

めまして5回の開催を予定しております。上半期に一般事業助成の選定に関する評価会のために2回。その後、少し間をあけて下半期に次年度の一般事業助成の変更などの検討及び助成事業の振り返りを目的とした中間報告で1回。次年度の募集要項確定のための協議で1回開催いたします。

予備回については、協議事項が発生した際に改めてご連絡をさせていただこうと考えています。

開催方法につきましては、5月8日からコロナの感染症が5類に見直されることを受けて、来年度は対面形式での実施を考えております。

それでは、開催回ごとにご協議いただく内容について、概要を説明させていただきます。

協働支援会議は一般事業助成の年間スケジュールとリンクして動いておりますので併せてのご説明となります。資料2、「令和5年度一般事業助成 助成団体決定までのスケジュール」と併せてご覧ください。

まず、一般事業助成ですが、明日3月28日の火曜日と30日の木曜日の2日間で一般事業助成の申請書の記載方法などの説明会を行います。また、各日とも説明会の前には講演会を行います。講演会では申請に関するポイントを、実際に評価を行う協働支援会議の委員からお話しいただいており、明日は関口委員、30日は伊藤委員に講演をお願いしております。よろしく申し上げます。現時点で明日は7団体、30日は5団体の申し込みが来ております。

4月からは申請の受付期間に入っております。4月3日の月曜日から17日の月曜日までの15日間、申請の受け付けを行います。この期間に団体とやりとりをさせていただき、申請する事業についての相談ですとか、より効果的な事業になるようにとご提案をさせていただいたり、申請書の書き方や不備の補正を求めたりといったことをしていきます。

申請期間の終了後、4月21日までに事務局より申請書類をまとめた申請団体のファイルを送付させていただきます。委員の皆様はファイルの到着後、5月8日の一次評価を行う前に事前に内容の確認及び事前評価の実施をお願いします。

5月に入ってから、5月8日の月曜日に第1回協働支援会議を開催し、一次評価を行います。一次評価では、事務局より申請事業についての説明を行い、それについて委員の皆様で協議をしていただき、最後に評価票を提出していただくという流れで進行していきます。

一次評価で生じる疑問点については、二次評価で直接団体に質問をお願いします。5月

30日に第2回協働支援会議を実施し、公開プレゼンテーションによる二次評価を実施します。プレゼンテーション終了後に評価票を提出していただき、その場で一次評価と二次評価の合計点をお示しさせていただきます。委員の皆様で申請事業の評価を協議していただき、その結果を受けまして、最終的に区が助成団体を決定していくというスケジュールになってございます。

なお、第2回協働支援会議の開催時間や終了時間は、一次評価を通過した団体の数に応じて変更となりますので、現在の記載から変更になる可能性があるという点だけあらかじめご了承ください。

6月以降は、採択された団体による助成事業が開始していきます。

資料1に戻りますが下半期、11月13日月曜日に第3回の協働支援会議を予定しております。これは助成事業の開始後、大体6カ月が経過したタイミングですので、委員の皆様は採択事業の実施状況について中間報告ができればと考えています。また、一次評価や二次評価を行う中で生じた課題等があれば、この会議でご協議いただき、次年度の募集要項への反映や助成団体採択の進め方を修正、対応していければと考えています。

その後、ご協議いただいた内容を踏まえて募集要項を修正し、2月5日を予定しております第4回の協働支援会議で募集要項を確定させ、次年度の募集に臨むというスケジュールでございます。

事務局からの説明は以上となります。

藤井座長 どうもありがとうございます。それでは、ただいまの事務局からの令和5年度の支援会議についての説明を受けたわけですが、委員の皆様から何か質問や不明な点、あるいはご意見がございましたらどうぞお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

今の説明、簡単に概略を整理しますと、令和5年度の協働支援会議は、対面形式で実施するという点が重要です。そして、開催時期、スケジュールについて、5月に2回。5月8日と30日に一般事業助成の評価を行うための会議を開催する。そして、6カ月置いて11月13日に採択した事業の中間報告と一般事業助成の変更などを検討する会議を実施する、開催する。そして、2月5日に次年度の募集要項確定のための会議を行う。また、予備回を1回置くということです。開催する場合には事務局から連絡があるということでしたが、いかがでしょうか。

ご意見、ご質問がありましたらどうぞお願いいたします。

地域振興部長、お願いします。

地域振興部長 さっき聞いてもよかったのかもしれないのですけれども、明日、それとあと今週の木曜日に事前説明会をやるということで、初回に7団体、2回目は5団体という説明がありましたけれども、参加する団体というのは全く新しい団体なのか、それとも今まで手を挙げてきた、例えば今年手を挙げていた団体に来てもらうとか、その辺はどういう内訳になっているのでしょうか。

藤井座長 事務局、いかがでしょうか。お願いします。

事務局 4年度助成した団体は、手挙げはなくて、今のところ来ているのは新しい団体が全部です。

地域振興部長 全部。

事務局 2団体が過去に助成をした団体から手挙げは来ているのですけれども、何年度かは調べてはいないのですけれども、過去に助成をした団体から参加希望が来ております。以上です。

藤井座長 よろしいでしょうか。明日7団体、30日に5団体。現在のところ12団体で、うち2団体を除いて新規の申請団体であると、こういうことですか。

地域振興部長 わかりました。ありがとうございます。

藤井座長 よろしいですか。ほかに来年度の会議についてご質問、ご意見、ご不明な点がありましたらどうぞ。

規定のこれまでのスケジュールに従って進めていくと。前回の会議で前倒しをすると。若干調整をしてということになりましたけれども、それを踏まえてスケジュールが示されているわけです。よろしいでしょうか。いかがでしょうか、皆さん。

ご不明な点、ご質問がなければ次の議題に進めようと思いたしますがいかがですか。よろしいですか。

どうもありがとうございます。それでは、議題2の協働事業進捗状況の結果について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 それでは、議題2について、資料3に基づきまして、今年度行いました協働事業進捗状況調査の結果についてご報告させていただきます。

こちらは毎年実施しているもので、全庁的に行われている協働の取り組みについて、その内容と進捗状況を調査するものとなっております。今年度より調査基準日を年度単位に変更したため、令和3年4月から令和4年3月までの協働の取り組みを対象としております。なお、昨年同様に新型コロナウイルスの影響により中止となった事業についても報告

の対象としております。

それでは、資料3-1の集計結果をご覧ください。協働事業の総事業数は255事業となりました。昨年の調査では253事業でしたので、総事業数は2事業増加となっております。

資料3-2、「協働事業進捗状況調査一覧表・簡易版」を併せてご覧ください。今年度追加となった事業、2事業について、一つ目が資料3-2の30ページ。ナンバーで言うと131番、地域包括ケア推進課の地域支え合い支援事業です。これは中落合高齢者在宅サービスセンターに地域支え合い活動の担い手や事業を実施する地域交流スペースを整備したことから協働が新たに始まりましたと報告がありました。

事業内容としては、高齢者が自立した日常生活を営むことができるように、地域において多様な世代が支え合う活動。これを行う個人ですとか団体の育成、支援、連携を行う事業と報告を受けております。

二つ目は、資料3-2のナンバー255、一番最後です。新宿区中央図書館の新宿区立中央図書館旧校庭の暫定活用で、ボランティア団体からの提案から協働が始まり、広場等を活用したイベント企画や菜園の運営等を実施していると報告を受けております。このそらとだいちの図書館ボランティアが実施している活動なのですが、このボランティア団体は、平成31年度一般事業助成でえんがわ菜園・家族食堂という事業を行ったえんがわ家族さんという任意団体の活動が発展していったものということです。

この活動については、事前にお送りしております『新宿ソダチ』で今年度取材をさせていただき、取材記事を掲載しておりますので後ほどご覧いただければと思います。

続きまして、資料3-1に戻ります。裏面の2、概要、各集計結果概要をご覧ください。

協働の形態についてですが、事業協力が121事業と最も多くなっております。この事業協力における区の役割の内容としましては、連携・支援の仕組みづくりや広報などのPR面での協力、行政情報の提供、会議・作業場所の提供、機材の貸し出しなどが上げられます。

次に、②相手方の選定方法ですが、こちらはその他が最も多くなっております。その他の内訳ですが、区の要綱での規定や業者指定などとなっております。また、公募やプロポーザルなど公開された形での相手方の選定方法が、全体の3割近くを占めている状況になってございます。

資料3-2については、本日紹介した事業以外にも掲載しておりますので、後ほどご覧

ください。また、詳しい調査結果は区のホームページでも公開しておりますが、今後この調査結果をどのように活用していくのが効果的なのかといったことも現在検討していく必要があると考えております。

今年度の協働事業進捗状況調査の結果についてのご報告は以上でございます。

藤井座長 それでは、議題2、協働事業進捗状況の結果について、今、事務局から説明をいただきました。委員の皆様から何か質問や不明な点、あるいはご意見がございましたらお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。いかがでしょうか。

コミュニティ課長、お願いします。

地域コミュニティ課長 地域コミュニティ課長の村上です。一般事業助成で助成をしてNPO法人が取り組んでいる活動以外に全庁的に協働事業として取り組んでいる取り組みを、毎年調査を地域コミュニティ課のほうでさせていただき、調査結果についてはこのような形で一覧にして、ホームページには掲載をしております。担当のほうからも今説明をさせていただいたとおり、せっかくこういった一覧表にする。あるいは、取りまとめをただけだとなかなかもったいないというようなところもございまして、例えば『新宿ソダチ』では、助成事業の取材だとかを紹介はしているのですが、今後いい取り組みがあれば、こういう一覧の中からピックアップをして『新宿ソダチ』に載せて紹介をするですとか、せっかく協働の取り組みが広がってきているということもございまして、何かこの調査結果について活用ができないかなと考えているところです。

先生方からも何か活用する方法ですとか、こういうふうにはPRしたらいいよみたいなご意見がもしあれば、今日でなくても構わないので、いただければありがたいなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

藤井座長 今、地域コミュニティ課長から事業進捗状況結果について報告がありましたが、図表で、あるいは概略が今回も僕、改めてページが54ページまで及ぶ255の事業について概略説明が載っていたので、大変ボリュームのあるよくまとめられていると思う。目を通させてもらったのですが、さらにこうした情報、データを載せるというだけではなくて、『新宿ソダチ』などのこうした媒体を通してピックアップして幾つかのケースの事例、取り組みをピックアップして、そこにフォーカスして、いろんなところにスポットライトを当てて紹介するというのも支援を発信する上でもいいのではないかと、こういうお話でしたがいかがでしょうか。皆さんから何かこれに関連して、このことについて、含めてですがお話、ご意見がありましたらどうぞ。

いかがでしょうか。先ほど課長のほうからお話があったときに、ピックアップするというふうにお話があったと思うのですが、そのピックアップするプロセスというか、どういう場で。要はご協議と言ってはあれですが、だれが何をというその手続はどのようにというの、何かお考えがございますか。

地域コミュニティ課長 数で言うと255ということなので、全部を一遍に紹介するだとか、取り上げるというのは難しいかと思うのですがけれども、例えばもう少し分析をして、最近の傾向で、コロナもありましたので、デジタル化を使って取り組んでいっちゃって、かつ、ほかの団体ですとか、区のほうも参考になるような事例が、もし傾向として見えてくれば、そういったものを取り上げてもいいかなと思いましたが、具体的にどのように選定しようとかというのが決まっているわけではなくて大変申し訳ないのですがけれども、せっかく一覧にして地域コミュニティ課だけで持っているにはもったいないというのもありましたので、協働を進めていく上でほかの団体や区の全庁各課が参考になるようないい取り組みが、すべてそれぞれいい取り組みなのですからけれども、参考だとか活用になるような事例を中心にピックアップができたらしは思っているところです。『新宿ソダチ』に紹介する以外でも有効活用ができたらいいなと思っております。

藤井座長 概要のところでは2点、今回の今年度の事業の特徴について説明いただいたわけですがけれども、そうした傾向のほかにお話がありましたけれども、何か際立ったというか、特徴的な取り組みがあれば紹介するということがいいのではないかというお話ですが、僕もそうだと思いますがいかがですか、皆さん、何かありますでしょうか。

事例の紹介とかこのピックアップについては、事務局のほうでザッとご覧になる、あるいは、委員の方で今回のようなアブストラクトの資料を示されているのをザッと目を通した中で、これはどうかというようなお話し合いがある。そういう場の中で抽出、ピックアップするということも考えられるかと思えます。

いかがでしょう、皆さん、よろしいですか。

それでは、議題がサクサクと今日は進んで、大変整理されているので本当によかったです。

では、関口委員。

関口委員 では、せっかくなので。方向性としてはそれで私もよいと思うのですが、逆説的な話なのですからけれども、要は逆に協働していない事業のほうが増えつつあるという面もあると思うのです。今回公民連携のほうに移管されましたけれども、協働事業

提案制度というのは、そもそも始めた趣旨としては、そういうものが少ない状況だから、それを促進するためにあえてあいつ制度を設けて、区役所の中にそういう精神ですか、事例として埋め込んでいこうということでわざわざ制度化して運用されていたということがあり、今回それをさらに民間事業者や企業等も含めた形で広く設けようということで公民連携のあの例の仕組みになったということだと思っているので、これを契機にちょっと当面の対応は、先ほどおっしゃっていた方向で私もいいと思うのですけれども、先ほど言った公民連携のあそこの部署と皆さんがやるこちらの制度との違いが何なのかとか、取り上げるにしても向こうも向こうで取り上げるのかもしれませんが、こちら、我々の会議の所管のほうでは、よりどういったものに着目していったほうがいいのかとか。

私が思うに恐らくそれは草の根であり、小さな、区民自ら、先ほどの話とかもそれはいいではないですか、感動的なストーリーです。ああいう自らが、区民の方々がやった活動がもう何か協働まで進んだというのは、すごくいいエピソードだと思いますので、それを少しめり張りといいますか、役割分担はしていったほうがいいのかないかなと思いました。

以上です。

藤井座長 ありがとうございます。課長、いかがですか、今のお話について、関口委員のお話を聞かれて。

地域コミュニティ課長 今実感として本当に協働していないほうが少ないというのが、まさにそうだなということで、区もまず浸透させるというようなところからスタートしているのですけれども、本当に全庁を見回しても区民の方の参加だとか、企業の方との連携がないほうが逆に少ないというのもあります。

これからどんどん民間の活用というような視点もございますし、本当に区民との純粋な協働だとか、地域活動も含めてなのですけれども、そういったようなあり方をこれから模索していかなければいけないときに来ていますので、その辺も含めてそういう視点で、役割分担も含めてあり方については考えていきたいと思っております。どうもありがとうございます。

藤井座長 そうですね。改めて関口委員のお話を伺って、この協働支援会議の固有のというか、その視点というのを改めて考える。こうした事業をレビューすることで、またそれを評価というか、見ることで改めて協働支援会議の役割であったり、区政全体の中での位置というか、視点を確認するということにもつながるのかもしれないと思います。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続いて議題3の『新宿ソダチ』の発行について、事務局から説明をお願いします。

事務局 議題3、『新宿ソダチ』の発行について。こちらは先日会議の開催通知とともに『新宿ソダチ』を同封させていただきました。皆様、既にご覧いただいたかと思いますが、改めてこちらについて簡単にご説明させていただきます。

こちらの冊子は、協働推進基金助成事業の活動の様子を広く周知すること。また、寄附者への報告や、あと市民活動への参加の呼びかけを目的に作成しております。作成に当たりましては、参加者は主に区民の方から募りまして、助成団体へ取材を行っていただくとともに、また区民目線で実施事業の紹介記事を書いていただきました。

編集プロダクションの講師から直接取材の方法ですとか、文章の書き方、そういったアドバイスを受けられることもあり、今年度は10名の方が作成に携わっていただきました。

今年度は一般事業助成の採択事業2事業と、あと過去に助成した団体2事業に、助成事業に採択されてよかったことについてというテーマで取材を行いました。あとは新宿区の協働推進基金の助成金というのがよくわからないという意見をいただいたので、受講生の方が制度の説明ページを企画していただき作成をいたしました。

受講生の方々からは、取材で団体の方から直接お話を聞くことができ、NPOの活動について、理解を深めることができたとか、こんな活動をしているのを知れてよかったとか、そういったお言葉をいただくことができました。

完成した冊子は、区施設をはじめ、新宿区の登録NPO法人などへ配布をしております。以上です。

藤井座長 今、事務局から議題3の『新宿ソダチ』の発行について説明をいただきましたが、委員の皆様から何か質問や不明な点、あるいは意見がございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

伊藤委員。

伊藤委員 伊藤ですけれども、今回の『新宿ソダチ』を読ませていただきまして、一番最初に感じたのは寄附金が多くなった。従来こんな100万を超えるようなのはなかなかなかったのですけれども、それも3年度はまとまった金額がある。4年度は個人の方がかなり。そう多くないと言ったら語弊があるのですが、10万円、20万円単位の方が多くなっていいことだと思います。

この人たちが寄附金を寄せてくれた理由と伺いますか、それだけこの協働推進基金。先

ほど課長からもありましたけれども、協働推進基金ということが浸透しているのかどうか。ほかの新宿区ではなくて協働推進基金へ寄附をしていただいたということで、何かそこはあるのかということをちょっと聞きたいと思います。

以上です。

藤井座長 事務局からお願いします。

地域コミュニティ課長 浸透が、どこまで区民の方にどれぐらいの割合でというのは、こちらのほうではまだちょっと把握はしていないところなのですけれども、例年、毎年同じ方が寄附をしていただけるというようなケースが数件あります。

それから、この基金については寄附のご協力をお願い、それから、その助成をした活動の紹介と併せて毎年定期的に『広報しんじゅく』で広報を出させていただいているのですけれども、そのタイミングでやはりご寄附を、広報の記事をご覧になって寄附をしに来たのだということで窓口にいらっしゃる方がやはり多いので、やはり周知といいますか、活動のご紹介や寄附のご協力をお願いというのを定期的にやっていることによる効果がある程度大きいのかなと、私としては感じているところです。

藤井座長 伊藤委員、どうぞ。

伊藤委員 事務局の努力のたまものです。また、大変ですが頑張ってください、継続してこのぐらいの金額が毎年出てくると、場合によっては基金が多くなれば、もう少し増えるかもわからないし、助成する団体が。そっちまで行けるといいと思います。

以上です。

藤井座長 今『新宿ソダチ』の14ページのところです。寄附の実績について、令和4年度と令和3年度について、この点で伊藤委員からお話があったわけですが、改めてご意見、ご指摘のとおりだと思いました。

ほかに何かどうぞご意見、ご感想がございましたらどうぞ。

大野委員、お願いします。

大野委員 社協の大野でございます。いつもお世話さまです。この『新宿ソダチ』で寄附金の募集というか、周知をして結構集まってきたということで、社会福祉協議会のほうでもいろいろ周知を一生懸命やりながら寄附金、または募金を募っているところなのですが、特にこの3年間。コロナでかなり集まる額が下がってきたところで、こちら側の協働支援会議のほう、『新宿ソダチ』のほうは増えているということなのでございます。これからもぜひ周知を工夫しながら頑張ってくださいと思います。ご苦労さま

です。

藤井座長 僕も改めて本当にそう思いました。いかがでしょうか、ほかに。この『新宿ソダチ』の発行についてですので、この雑紙づくりとか、レイアウトであるとか、取り上げる視点であるとかについてもご意見、ご感想があればどうぞおっしゃっていただければと思います。

改めてですが、この『新宿ソダチ』は、区民の方はどういう形で手にとられるのでしょうか。簡単にご説明いただけますか。

事務局 まず、区有施設に配布をして配架をお願いしているので、パンフレットのラックなどに置いていただいているので、興味を持った人にお手にとっていただくというのが一つ。あとは色々なイベントです。例えば今年だと「はたちのつどい」での配布をお願いしてお渡しをしたりと、様々なところで配って周知するという形で使っております。

やはりこういった冊子でどこが見られるかといったら表紙だと思うのですが、今年は表紙を決めるに当たって、新宿で新しくできたのは何だろうという話を参加した皆さんとして、JR新宿駅の東口を出たところにあるネコが飛び出している様に見えるところがありまして、これが新しくできて、SNSとかでも結構人気になっていたの、これじゃないかというところで、うまく写るよという事でカメラマンさんにも工夫してもらって、こういった表紙になりました。

藤井座長 印刷の部数と発行されて手にとられて、はけるのは、大体どのくらいなのか。

事務局 3,000部印刷してしまして、昨年分とかを集計をしっかりとっていないのですが、在庫数を見ると大体1,500くらいなので、ただ、実際に各施設でどれだけ残っているかとかを確認はできていないので正確な数字ではないのですが、一応そのくらいの規模感でございます。

藤井座長 これをご覧になられた区民の方から何か問い合わせとかがあったりという、そういうフィードバックというのはありますか、どうでしょうか。

事務局 団体の取材の内容についてもありますし、あとはやはり一番多いのはこの寄附の話。申し出書をこのページの中に入れたことで、寄附申請されるときに、この申込書を使って寄附される方が結構いらっしゃるの、なのでこれを見て、それで寄附につながっているのかなと感じております。

藤井座長 どうも。僕ばかり質問して。皆さん、いかがでしょうか。

関口委員。

関口委員 では、私も。まだ拝見していないのですけれども、たまたまですが、昨日ちようど子どもと一緒にネコの飛び出すあれを子どもがユーチューブで見つけて、「あれを見に行きたい」と言うので、千葉県から見に行くぐらい確かにインパクトがある。あれだけで集客力があって、私も子どもと見ている間、いろんな人がずっと写真を撮っていましたし、新宿区は本当にリソース豊富だなと思いましたので、素晴らしいなと思いました。

まじめな話をすると、今は紙媒体ではないですか。もちろん紙媒体のよさというのもあると思うのですけれども、それこそだからゆくゆくはこの動画時代ですので、紙媒体だけではなくて動画として例えば紹介動画とか、『新宿ソダチ』イン・ユーチューブみたいな形で。そういう動画の形での紹介というのも、今すぐには言いませんけれども、若者が活字を読まない時代なので、残念ながら。

動画でのというのも、区民の方がそういう編集能力を身につけるというのも、これは素晴らしいと思いますし、念のため申し上げておくと、この『新宿ソダチ』のレベルは、私が知っている限り全国でもトップクラスだと思いますので、手法とか内容を含めて非常にレベルが高いと思います。何かコンクールとか応募したらいいのにとか思っているのですけれども。

だから、これ、今の時点で十分なのですけれども、欲を強いて言うと動画でもなとか思ってしまうということで、余りプレッシャーには感じずにアイデアレベルで考えておいていただければいいかなと思いました。

以上です。

藤井座長 いかがでしょうか。本当に読めるやつですね、『新宿ソダチ』はレイアウトもいいし。課長、いかがですか。

地域コミュニティ課長 今やはり紙媒体以外で、関口先生のほうからあったように動画ですとか、SNSというのが主流になってきているので、そういった媒体での発信も今後は検討課題だと思っておりますので、ご意見本当に参考になります。ありがとうございます。

藤井座長 ほかはいかがでしょうか。写真もいいし、結構引きつめますよね、今回の『新宿ソダチ』のこの表紙を飾っている正面にいる3人の子どもたちというか、様子を見て。いろんなここから含意を受けとめたりすることができるなと思いながら、背景の中で。

ほかはよろしいですか。それでは、質問がないようですから、続いて議題4のその他に

移りたいと思います。

議題4のその他ですが、今年度最後の協働支援会議となりますので、委員の皆様から感想などを、1年間振り返っての振り返りを改めてお伺いできればと思います。せっかくの機会ですので、まだ時間も予定よりもありますので、できましたらお一人ずつお伺いできればと思います。よろしいでしょうか。

それでは、まず私の画面を見ながら進めさせていただきますが平野委員、いかがでしょうか。振り返りというか、課題であったり、あるいは今後の展望であったり。

平野委員 本会とは直接は関係ないかもしれませんが、新宿で活動されているNPOのもやいさんが、先週私どもの事務所に来て、前に社会福祉協議会の大野委員にご相談差し上げた新宿の中での食糧支援というのを推進できないかということでボンドプロジェクトだとか、あとはほかの食糧支援だとか、NPOのみんなのおうちさんだとか、多様なNPOセクターは新宿区で活動されていますので、そういう方々に対するプラットフォームとしての食の問題は考えられないかみたいな話はちょうど先週したところです。

ですが、このたびのこういう会議等が、いろんなNPOセクターだとかを結びつけるところの共通課題としてそういう問題があるのだということをまた情報交換をして、また認識をして、どうしたらそれを伝えられるかという。先ほどの『新宿ソダチ』のお話もありましたが、民間企業だとかが持っているストックを新宿で活動されていて、実績のある団体の方々がそのような連携を、向こうの方からお声がかかった話ですので、私が持てるノウハウで大野委員にご相談したとおり民間企業からの食糧支援を食の自立に欠けている方々や一人親家庭、あるいは外国籍の方だとか、少し生活の困窮の状態にある方々に対する支援を、税金をすべて使うわけではなくて、民間からの寄附を今『新宿ソダチ』でお話しされていましたので、寄附の中でも食料品の寄附だとか、物を置く場所だとかの寄附もございますでしょうから、そういうことも含めて推進できればいいなということで、このたびの新宿のこの委員会に出させていただいて、新宿の団体や色々団体から今お声かけいただいているのは、多分この委員会に対する期待があるのかなと思ひまして、それをお伝えしようと思って発言をさせていただきました。

以上でございます。

藤井座長 ありがとうございます。今の課題、そしてこれからのどういう方向性になっていくのかということについての平野委員からのお話をいただいたと思います。本当に今の社会は大きく変わっている。我々はそのただ中で、社会の変化の中の本当に最初のとこ

ろでその位置どりをしているという認識を痛感するときがあります。

よくもう本当に陳腐な言い方ですけども、炭坑のカナリアというふうによく言われま
すけれども、そうしたところに今我々、この委員会も一端にいるのだなということを思っ
たりします。どうもありがとうございます。

それでは、続けて竹井委員。

竹井委員 皆さん、ご無沙汰しております、竹井です。1年間を通してというか、僕も
結構長い年月こちらに携わらせていただいている、少し皆さんと違う話をさせていただき
たいと思っています。

これ、画面共有はどこでやるのでしたっけ。何かおもしろい絵でも見ながらちょっとお
話ししようかなと思っておりまして、画面は見えていますか。

3月の頭にブータンに行ってきたのです。ブータンの中でもボランティア活動とかNP
Oの話がいろいろ話題になっておりまして、向こうはブータン国王が主体になって、国王
のもとで若者とか食料がない方が色々ボランティアにつくというのが向こうの何か国でも
やっていて、ミスター竹井、日本はどうなのだという話題があったときに、今回のここ
のお話をいろいろさせていただいて、向こうの保健大臣とかもすごく感心していて、ああ、
すごいね、ジャパンはみたいな形をいただいています。

なので、僕がちょっと思ったのが、ここに普通に皆さんと携わらせていただいたことだ
ったのですけれども、こういうところを通して実は世界とか、やはり日本とか自治体だけ
ではなくて世界全般的にそういう活動がすごく密にあって、やはり同じようなみんな課題
とかソリューションというのを非常に持っているのだなというのを今回肌で実感できて、
かついろいろ今回、最近はできていないですけども、新宿区の活動の中で実際に。

今はできていないですけども、現場に行かせていただいたりするときに、文章だけ
ではなくて、しみじみとした内容というのが、委員の我々とかそういうところにもすごくわ
かってくるので非常に参考になったという事例でした。

すごい仰々しくみんなでいろいろやっていたのですけれども、非常におもしろくて、日
本の今回の活動とか、どうやってお金を調達しているのとか、そういう生々しい話とかも
こういうところに色々携わらせていただいた中で、実態の自治体の名前とか僕も今回こ
こを上げさせていただいていないのですけれども、僕の近くではこんなことをやっているよ
という話をして、ああ、すごいいいねというところで。

何か今度4月ぐらいに皆さんで、政府の方、皆さんでいらっしゃるのですけれども、僕、

何か行きたいなみたいな話がちょっと出ていて、少しびっくりしてしまったのですけれども、もしそういう機会があったら別件でご相談をさせてくださいという、ちょっと話が違ふところですが、私の感想を述べさせていただきました。

以上となります。

藤井座長 ありがとうございます。竹井委員は今年度で任期が満了になられると伺っていますが、その意味では本日が最後の会議参加と伺っております。もう本当にこれまで本当に感謝したいと思います。

竹井委員 どうもありがとうございました。皆さん、さらに皆さんがこれから僕も発展するいろいろな活動できることを。僕もこれから区民というまた立場に戻って拝見させていただくと、私が事で僕も参加、自分でできることをやっていきたいと思いますので、引き続き皆さん、よろしくお願ひしたいと思います。

藤井座長 ありがとうございます。それでは、続いて、則竹委員、お願ひします。則竹委員も竹井委員と同じく今年度で任期が満了になられると伺っています。それでは、ご意見をお願ひいたします。

則竹委員 則竹でございます。2期4年ですかね、お世話になりました。ありがとうございました。大変会長を初め、皆さんの人柄に助けられて楽しい会でした。

私もいろんな新宿区の会といいますか、委員会に顔を出させていただいてまして、先週も新宿区の産業振興会議という文化観光産業部が所管されている会議ですかね。そちらにも私、出させていただいて、先ほど民間のリソースの活用ということがこの会でもあるのですけれども、産業振興全体の観点からも、今コロナ禍とそれから物価高騰という厳しい環境下で区内の中小企業の皆さん、大変疲弊されているという話その会議で出てまして、何か商店街を活性化していく。特に地場産業は、新宿は結構印刷とか、それから飲食の関係が多いですから、商店街という単位で何か活性化ということをやらないといけないという話が出ていて、やはりNPOとかいろんな地域の自治体、町会、育成会みたいなところとどう新宿区をこれからまた盛り上げていくのか。

そっちのほうの活動も少しやっています、この会議を卒業させていただいてからも、またそういった観点で商店街の活性化とかといったことで、またどこかで接点が出てくると思いますので、引き続き新宿をよくするために。地元新宿、新宿愛をどれだけ発揮できるかというところを頑張っていきたいと思っていますので、これからも引き続きよろしくお願ひいたします。どうも4年間ありがとうございました。

藤井座長 改めてですが、本当に則竹委員のこれまでの会議でのご発言、多様な視点からご発言いただきました。本当にこの会議の充実・発展に大きくご貢献いただいたと思います。本当にご尽力に感謝したいと思います。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、大野委員、引き続きですがお願いします。

大野委員 社会福祉協議会の大野です。この会は本当に長い間いろいろ頑張ってきて、参加される団体も数が増えてきていると。また、進捗状況調査でも、平成15年度のころでは70、16年度でも80というところが、17年度から一応100を超えて100ちょうどぐらいのところをずっとその後7~8年推移して、平成25年から調査対象の掘り起こしをどんな形でやったのかというところが気になるころですけれども、これによっていきなり150を超えてくるという形になり、翌年はもう200弱まで一気に増えてきて、その後またさらに翌年200今度は250ぐらいまで行って、現在それがずっとまた7~8年、250ぐらいのところを推移しているという。かなり多い数で推移しているなというところはすばらしいなという思いがいたします。

それで、あと先ほど平野委員がおっしゃられていましたけれども、食の支援という点では、国のほうなり何なりでかなり大量のまだ食べられるお米等食材をどうやって使ってもらおうかという話を話しかけられて、これは使わない手はないなと、もったいないなということで、私もできればご協力できないかなと思って、区へも働きかけをしながらというところで、少し関わらせていただいたところなのですが、区は区で所管がそれぞれ違うのでしょうけれども、いろいろ物を集めて、それを必要な方にお配りしたりだとかということもやられているようですし、社協は社協でいろんなところで、お金だけではなく品物としてもご寄附いただくことが結構多いので、そういったものをお配りしながらということと、あとはまさに食支援でフードパントリーというのも2年前から開始して、当初は社協が事務局として1人でという言い方もおかしいのですが、やっていたところ、令和4年度は、新宿区内に事務所がある44の社会福祉法人が連携している社福連。社会福祉協議会連絡会というのがあるのですが、その社福連が主催者となりましてこの食の支援ということを始めました。

ということで、新宿社協だけではない区内44カ所に分かれるところが、例えば物の集積場所になってみたりだとか、寄附を保管する場所であったりだとか、またはお配りする場所としても活用することによって、利用者にとって利便性が高まるのではないかという

ことで、公益事業をさらに広めていくという活動も今やっているところではあるのですが、食に限らず様々行政だけではとてもではないですが、皆さんが安全安心で生活していくということがなかなか回り切らないところを、やはり地域に住まわれている方ご自身がいろいろ持たれている能力、技術、技能をお互いに出し合いながら、協力し合いながら支えていくことによってセーフティネットの厚みが厚くなり、なおかつ幅も広がって、見落としがちなどころを見落とさないようになって支援できるのかなという気はします。

そういう点ではこの協働事業というのは、どっちかという福祉だけではなくて、もっと積極的にこうやったらいいのではないかとということも含めていろいろ参加する団体が入ってくる。それに対して区としていろいろ財政的にも支援していこう、または一緒になってやっていこうという。これは関口委員がおっしゃられたように、やはりそういう一緒にやっていくほうが、むしろ今はもうメインになってきていると、基本になってきているのではないのという。まさにそうだなと。そういう社会であるべきだなというのをすごく実感します。

だから、社協としてもそういう思いで一緒になってやっていきたいと思っています。どうもありがとうございました。あと藤井座長、私は、任期はまだ多分終わっていないのではないかと思いますのですが、全く私ごとで恐縮ですが、今年度で社会福祉協議会を退職ということになりまして、4月3日月曜日からまた新たな次長が参りますので、引き続きこちらの協働事業のメンバーにならせていただくということで引き継ぎもしていただきますので、よろしくご指導のほう、お願いいたします。大変お世話になりました。ありがとうございました。

藤井座長　そうですか。大野委員、どうもありがとうございました。

大野委員　とんでもないです。

藤井座長　竹井委員、則竹委員とともにということなのですが、本当にありがとうございます。どうもご尽力に感謝させていただきます。ありがとうございます。

改めてですが、そもそもこの支援会議が立ち上がったし、助成事業が立ち上がった本来の目的というのが、行政であったり市民であったり自治体の中でこの協働という価値をこれからの価値創出と、そしてそれを広めていく。そうした役割というのが一方で大きくあった。

今はもうそれが当たり前ようになって、大野委員がお話になったように、その中でこ

れからより個別の、平野委員からもお話がありましたが、大野委員からもつなげてお話がありました。個別の課題に掘り下げて取り組んでいくという、そういう課題意識、問題意識と、そしてその取り組みにつなげていくという、そういう役割を担っているのだなどいうのを改めて思いました。

それでは、伊藤委員、お願いします。

伊藤委員 伊藤です。長らくこの会議をやらせていただきましたのですけれども、このコロナ禍の3年間というか4年かな。非常に変化のあった年だったと思います。今までのような会議体は全然なくて、こういうパソコンを使ったオンライン会議ですが、それも最初入るときにはどんな風になるのかなという懸念を抱きながらやってきたのですけれども、皆さん、事務局の方々の運営で十分な会議ができたように考えます。

それと、あとはこれからもこういう状況が出てくるかもわからないので、そのときのためにいい経験になったと思うのです。コロナだけではなくて、ほかのことも出てくると思いますので、事務局さんも今回のこの経験を後世にと言ったらおかしいですけれども、やり方、方法論を残しておいて次回に行くといいと思います。

それと、この会議体がこういうふうに十分に機能を発揮した中で、新宿区の中のほかの部門の会もどうなっているのか。そこら辺もお知らせいただいて、より効率的なやり方を残しておいていったらいいと思います。

以上です。

藤井座長 ありがとうございます。それでは、地域振興部長、お願いします。

地域振興部長 大柳です。1年間皆さん、どうもありがとうございました。私は委員ではあるのですけれども、どうしても事務局側のほうの立場にもいますので、そちらのほうの視点からも含めて発言させていただきたいと思います。

この1年間本当に皆さんからいろんなご発言ですとかご指摘いただきまして、任意団体に対して採択をして事業をやっていただいたわけですけれども、そのほかにも色々な団体が区の中で。区の外もそうなのですけれども、いろいろな課題であったり、それを取り扱って活動されているのだなどということを知ることができました。

さきほど私、新しくこの団体で手を挙げてきたのが幾つあるのだということを知ったのですけれども、実は少し一般事業助成の候補というのは、例年多く出てくるのかなと思ったら、意外に今年は少なく3団体しか上がってこなかったのですけれども、今年度は事前の段階でこれだけの団体が手を挙げてきてくださったのは非常にうれしく思っているの

すけれども、まだまだいろんな団体にこの情報の発信というものをしていって、色々な団体を結びつけていくというのをやはりやっていかなければいけないなというところで、この事務局サイドの面から少し反省したところがあります。

やはりどうしても区役所というのは情報の発信が、先ほど関口委員からもご指摘がありましたけれども、発信というのはうまくないものですから、その辺をうまくどう言ったら活動団体に私たち区役所がやっている事業というのを知ってもらって、1団体だけではなくて、情報の発信の仕方も様々な団体が幾つか集まって一つの課題を解決していくというやり方もあるかと思うので、そういった情報の発信の仕方ですとか、団体と団体をつなげていく、役所の解決策ともうまく連携していくというような仕組みというのを、我々のほうも少し考えてしっかりやっていかないといけないなというようにところで反省したところでございます。

来年は、今週12の団体が説明会に来てくださるということですので、ぜひ新宿区が抱えている課題を少しでも解決していただけるような団体と、また一緒に仕事ができたらいなと思いますし、併せて我々もいろんな団体と接点を持って、今後課題のほうを解決していけたらいいなと思ったところでございます。

1年間本当にありがとうございました。

藤井座長 ありがとうございます。それでは、関口委員、会長代行として、副会長として1回か何度かお願いしたことがあった。お世話になりました。ありがとうございます。では、よろしく申し上げます。

関口委員 私も先ほどしゃべらせていただいたので簡潔に述べますけれども、本当に代行のときには本当にいろいろお世話になりましたし、私も新宿区の会議はかれこれ10年目ぐらいなのですけれども、楽しみにしております。こちらでの経験をもとにほかの自治体でも、委員長をさせていただいているのですけれども、これまでの歴代の委員長の議事運営を参考にしながら、そちらのほうでは委員長をやらせていただいていますので本当にありがとうございます。

話は変わるのですけれども、私、最近自分が中年に差しかかっているということもありまして子ども、若者の参画への支援というのにすごく関心がもともとあり。もともと教育学部というのもあって関心がありまして、ここでご紹介したか忘れてしまったのですけれども、例えば神奈川県茅ヶ崎市とかでは、NPOが主催でこどもファンドという取り組みをされていて、子どもたちが小さな5万円の助成金なのですけれども、子どもたちが考

えた企画に対して子どもたちが審査をして、子どもたちが決めたところへ助成金を出すみたいなの、そういった取り組みとかが始まっています。

ほかにもいろいろなところで例えば若者議会ですとか、若者協議会とかいうスカラシップとか、そういった形で若者たちがいかに地域に参画していくかという取り組みを行政ないし民間が後押しするという取り組みが各地でも始まっているのですけれども、この会議は基本的にはある程度プロといいますか、パートナーとしてある程度成熟した団体に対してというところは前提としてありつつも、この会議でも何回か出ていましたけれども、新宿区というのは大学とか学術機関、教育機関もたくさんありますし、高校もいっぱいありますし、あるいは子どもがまだ増えているという全国的に見れば珍しい地域でもあるので、今後は少しそういった子ども、若者の取り組みの応援というのに少し何か特別なフォーカスをしていいのかなと思っています。

例えば4月1日からは子ども家庭庁もできますし、こども基本法という法律の中では子どもたちの意見反映というの。これも義務になるということもありますので、区民委員の方の1人ぐらいは子どもとか若者というのもいいのかなと思います。そうすると平日やれないよねという話になってしまうのですが、それぐらいドラスティックな改革が社会全体としても起きていますので、今のは、半分冗談ですけども、子ども、若者の取り組みをどう応援していくのか。あるいは、その意見をどうやって反映させていくのかというのは、これはなかなか今後の課題なのかなというふうに思っています。ありがとうございました。

藤井座長 ありがとうございました。また、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、これをもってですが、最後に事務連絡を事務局のほうからお願いしたいと思ひます。

地域コミュニティ課長 委員の皆様、本当に1年間大変お世話になりました。どうもありがとうございました。無事に令和4年度の支援会議、本日をもって終了させていただけることになりました。本当にお礼申し上げます。

最後に事務連絡ということでご案内させていただきます。まず、次回のご案内ということで、令和5年度の第1回目の協働支援会議、先ほど説明させていただきましたが、5月8日月曜日の午後2時から開催とさせていただきます。開催方法は対面形式で、場所なのですが、区役所の本庁舎6階第2委員会室ということでご案内をさせていただきたいと思ひます。

議題は、一般事業助成の一次評価を行う予定です。よろしくお願いたします。申請書の一式、ファイルは4月21日ごろに郵送で送らせていただきますので、当日までに事前に内容の確認をしていただければと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

事務局からは以上です。

藤井座長 どうも。それでは、本日は以上となりますが、改めてですが、今日を本日最後の会議でご出席いただきました竹井委員、則竹委員、そして大野委員にお礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

— 了 —